

NCA C

Opus1
April 2016

Magazine

Focus on NOW!!

- ▶ 長野市芸術館 グランド・オープニングコンサート 久石譲指揮 読売日本交響楽団
- ▶ 長野市芸術館 リサイタルホール・オープニング・コンサート 山本貴志 ピアノリサイタル
- ▶ チック・コリア&小曽根真 ピアノ・デュオ プレイズ・アコースティック
- ▶ 長野市芸術館オープニングシリーズ 自主事業ラインナップ

Contents

Message

- ・久石譲 長野市芸術館芸術監督 1

Focus on NOW!!

- ・長野市芸術館 グランドオープニング・コンサート
久石譲指揮 読売日本交響楽団 (取材・文: 柴田克彦) 2,3
- ・山本貴志 / チック・コリア & 小曾根真 (文: 萩谷由喜子) 4
- ・長野市芸術館 オープニングシリーズ 自主事業ラインナップ (文: オヤマダアツシ) 5,6,7

Pick-up NOW!!

- ・長野市民会館50年の記憶と新しい記憶展(仮) 8
- ・アクトスペース・チャレンジ2016 地域創作プログラム[KENJI] 8
- ・文化芸術の新しい風〜長野市芸術館 開館記念共催事業 9
- ・Canon Presents ウィーン少年合唱団 9
- ・Cobaスペシャル・ライブ at NCAC!! 9

Stage Information 10,11

[アートメントNAGANO2016] 善光寺・奉納コンサート / 久石譲ミニマル・ミュージック・ワークショップ / ナガノ・チェンバー・オーケストラ第1回定期演奏会+NCAC音楽大学 / ナガノ・チェンバー・オーケストラ第2回定期演奏会 / 秋山和慶(指揮)新日本フィルハーモニー交響楽団 / 長野市の文化・芸能「長野市の文化…扉を開けると!!」 / 弧の会日本舞踊公演 / 鼓童ワン・アース・ツアー2016〜混沌 / 鼓童 太鼓ワークショップ / ピアノ de ベートーヴェン・シンフォニー・マラソン / 東京混声合唱団 / クラシック音楽キャラバンEX【2】 / クラシック音楽キャラバンCafé / Everly ライヴ!! / 久石譲によるフェスティバル・フィナーレ公演

Ticket Information 12,13

[サマー・キッズ・デイズ NAGANO]シルク・イナシュヴェ / 親子のためのクラシックコンサート「音楽の絵本」2days / 音楽紙芝居『月夜のナイチンゲール』 / 親子 de 能楽体験 / 子どものためのパレエ「ドン・キホーテの夢」 / 茂木大輔☆クラシックまるわかりレクチャーコンサート / NCAC音楽大学「音楽の分かる大人になろう!」講座 / 侍BRASSアンサンブル・クリニック / 侍BRASS2016川中島 / オーケストラでめぐる世界の旅 / 神尾真由子(ヴァイオリン) & ミロスラフ・クルティシエフ(ピアノ)

Facilities 14

- ・メインホールについて、語ります

News 15

- ・長野市芸術館広報誌の装丁画は、越ちひろ
- ・クラシック音楽キャラバン登録アーティスト・ラインナップ
- ・メインホール ビュッフェコーナーのご紹介
- ・久石芸術監督の記事、まだまだあります

How to get tickets 16

- ・Nチケ会員募集中! NCACチケットオンライン / NCACチケットセンター ご利用案内

Partners 17



長野市芸術館メインホール

信州の山々、木々に囲まれた緑の中のホール、そんなイメージをもち、「森の音楽会」という言葉がうかびました。その言葉を絵にしました。

越ちひろ Chihiro Koshi/ 画家

1980年長野県千曲市生まれ。2006年東京造形大学卒業。2004年トキョーワンダーウォール賞受賞後、東京都庁での個展を機に数々の展覧会を開催。2015年にはニューヨークにてグループ展に参加したほか、長野駅ビルの壁画完成。表現の幅は広く、ライブペインティング、CDジャケット、地域イベントへのアートの提供など、キャンパスの枠を超えたアートの可能性を世界に展開している。

日常に音楽を。



さまざまなジャンルの音楽・芸術を、長野から発信。長野市芸術館が特別編成する室内オーケストラ「Nagano Chamber Orchestra」の立ち上げ、夏の長野を芸術で彩る音楽祭「アートメント NAGANO」の開催により、みなさんが音楽・芸術と身近に接することのできる機会を創出します。「そこに行けば何かがある」。期待に胸躍るような長野市芸術館を創造します。

長野市芸術館 芸術監督 久石 譲

音楽を日常にする第一歩

～久石譲に聞く

「グランドオープニング・コンサート」への思い

取材・文：柴田克彦（音楽ライター）

「柿落としての公演には、プログラム1つとっても、ホールの今後を見据えた姿勢が表れると思います。長野市芸術館のグランドオープニング・コンサートにも、それを打ち出したいと考えました」。

当ホールの芸術監督・久石譲に、柿落とし公演について話を聞いたとき、彼はまずこう語った。一見当たり前に思える言葉だが、そこには、この著名音楽家が、ホールの方向性に自らの考えを反映させる意志が表れており、ひいては長野市芸術館が、従来の公共ホールにはない個性をもった、唯一無二の存在に成り得ることが示唆されている。

過去の事例を見てきて思うのは、“ホールには顔となる人物が不可欠であり、しかもその人物が明確な方向性を示してこそ出し物が生きる”ということだ。そうでない場合は、たとえ

人気アーティストの公演を行っても、ラインナップが輝きを放たない。また、顔となるのは概ねクラシック畑の作曲家や演奏家、あるいはプロデューサー的な人物だが、個々の専門分野や嗜好性にこだわり過ぎれば、聴衆の層が限られてしまう。特に公共のホールでは、明確な方向性と同時に絶妙なバランス感覚が必要となる。

久石譲は、作曲家、指揮者、演奏家であり、プロデュースも手掛けている。作曲家としては、宮崎駿監督の“ジブリアニメ”や、北野武、山田洋次監督などの映画音楽に携わると同時に、クラシック系の現代曲の作品を創作し、オーケストラでは自作や現代曲も古典も指揮する。さらには室内楽に取り組み、ピアノを弾き、コンサート・シリーズも企画する。こうした広い視野と最前線での豊富な経験を有する人物が、ホールの芸術監督を務め、自らの考えを反映させるのは、日本初と言っても過言ではない。それが、長野市芸術館が唯一無二の存在と成り得るゆえんだ。

コンサート全体について、久石はこう話す。

「オープニングですから、やはり希望があった方がいい。そこでチャイコフスキーの交響曲第5番をメインに選びました。この作品は、いわゆる“闘争から勝利へ”“苦悩から歓喜へ”という明快な構造をもっています。それはベートーヴェンの『運命』や『第九』に通じるもの。しかも10数年前、僕がオーケストラで交響曲の全曲を指揮した最初の作品ですので、新たなスタートにも相応しいと考えました。それと自分は現代の作曲家ですから、いま活躍して

いる作曲家の作品をきちんと演奏したい。そこで選んだのがアルヴォ・ベルトの交響曲第3番です。また、自分が書く『祝典序曲』については、いま(3月中旬)スケッチ段階ですが、(本領である)ミニマル・ミュージックをベースにしながら、世界中のオーケストラが演奏できる、3管編成で7～8分の曲にしたいと思っています」。

ここに彼の持ち味(の一部)が反映されているのは言うまでもない。演奏は、在京オーケストラの最上位に位置する読売日本交響楽団。これまで久石が、2回の「第九」をはじめとするベートーヴェンの交響曲や、ショスタコーヴィチ、オルフなど数々の作品を指揮してきた、信頼の厚い楽団のひとつである。

「素晴らしいオーケストラであり、日本を代表する存在なので、オープニングに相応しいと考えました。それに私がクラシックの現代曲として書いた作品を数多く演奏してもらっているのも、出演をお願いした理由のひとつです。先日読響の弦楽器陣を主体としたメンバーと録音を行ったのですが、難しい譜面を渡しても即座に理解してくれまし、ありがたいほどの信頼関係ができています」。

読響は元来ゴージャスでスケールの大きなサウンドが特長だが、近年さらにパワーアップし、アンサンブルの精度と表現力を増している。充実著しい同楽団ならば、新ホールの響きを十全に満喫させてくれるのは間違いない。

プログラムを詳しく見ていこう。演奏順にまずは自作の「祝典序曲」(長野市芸術館委



嘱作品)から。これは技術的に難しい曲になる可能性が高いという。

「自分が振れないかもしれない(笑)。ミニマル系の音楽は“ズレ”がポイントですから、フレーズで考えるのではなく、8分音符は8分音符、16分音符は16分音符の正確な音価でとっていかなくてははいけません。それはポップスでいう“グルーヴ感”に近いものです。ただ日本のオーケストラはこのような曲を演奏する機会がないので、上手いできない。従って例えばジョン・アダムの曲がなかなか取り上げられない。自分の中で最大の課題は、世界では当たり前になっているそのような音楽に取り組んでいくことであり、今回もそうした曲を書くつもりです」。

前記のように、読響は難曲にも対応できるオーケストラだ。

「この前読響で僕のコントラバス協奏曲を演奏したとき、メンバーが『今年最大の危機。1回落ちたら絶対に戻れない』と言っていたとの話を、後で聞きました(笑)。今回は難度が最大級になりそうですが、もちろん心配ありません。ただ一方で、通常よりも苦勞せずに演奏できる曲にしたいとの思いもあります。祝典序曲というのは、ショスタコーヴィチの作品のように、吹奏楽で普及するケースもあるので、それも考慮に入れながら、演奏可能な範疇には収めたいなと」。

同曲は、当然グランドオープニング・コンサートが世界初演。作品自体もむろん楽しみだし、新たな音楽が誕生する瞬間に立ち会う喜びは大きい。

ベルトの交響曲第3番は、1971年に書かれた3楽章の作品。久石は昨年、信頼するもうひとつのオーケストラ、新日本フィルのコンサートで指揮している。

「ベルトはエストニア出身で、若い頃はいわゆる“現代音楽”を書いていたのですが、複雑になり過ぎたことの反省から、古い教会旋法に戻って、シンプルな表現を目指しました。ですから調性もありますし、基本的なメロディは賛美歌やオラトリオの研究の成果を反映しています。その東欧特有のメロディは、日本人の琴線に触れるもの。24～5分でさほど長くもなく、『こんなにわかりやすいの?』と言われるほど、皆に親しんでもらえる曲です」。

実際この曲は、耳なじみがよく、ピュアな美しさに充ちている。演奏機会の少ない名作だけに、今回ぜひ生で味わいたい。

流麗なチャイコフスキーの交響曲第5番は、リズムを軸にしたミニマル・ミュージックが本領の久石のイメージからすれば、意外な感もある。

「そう思われるかもしれませんが、僕は一方で映画音楽を随分やっています。そちらの方

面から考えれば、ロマン派の音楽は抵抗がないんですよ。例えばラフマニノフなどは僕と一番縁がないように見えますが、彼の交響曲第2番は物凄く指揮したい作品なんです」。

ただチャイコフスキーの5番は、「作曲家目線で見ると、成功しているかどうか微妙な曲」だという。

「循環主題(全楽章に登場する第1楽章冒頭の旋律)の扱いが過度で、全体のフォルムが崩れていますよね。多くの指揮者はそれをカバーするために、一生懸命歌い上げるのですが、あまり成功しない。楽章ごとの主題に加えて循環主題があるので、その処理の仕方曲が全く変わります。一例を挙げると、多くの演奏は第4楽章冒頭の循環主題を朗々と歌います。でもオーケストレーションを見れば、クラリネットが弦に変わっただけで、伴奏の配置は第1楽章の冒頭と全く同じ。なので第1楽章同様に抑えるべきと考えています。あと今回楽しみにしているのは、第2楽章の朗々としたホルン。読響のような良いオーケストラでどうなるのか、僕自身も聴いてみたいですね」。

甘美なメロディとロシア的なロマンに溢れたこの曲は、オーケストラを初めて生で聴く人が醍醐味を知るに最適だ。しかも今回は、作曲家＝久石ならではのアプローチによって、聴き慣れた耳にも清新な演奏が実現するに違いない。読響の華麗な響きと相まって、これは万人必聴の1曲となる。

今回は、日本の新作、ヨーロッパの現代曲、ロマン派の作品とカテゴリーの異なる楽曲が並んでいる。これは「意識してのこと」との由。

「日本のオーケストラは、チャレンジできないんですよ。指揮者は毎回結果を出す必要があり、観客も集めないといけない。現代曲を入れようものならお客さんが来ない。それゆえ、これは日本自体の問題でもあるのですが、全員



で安全圏を狙っていく。でもクラシック音楽は古典芸能ではありません。過去から現在に繋がり、未来に繋げていかないといけない。すると現代の曲の中から何かを見つけて、きちんと演奏していくことが重要になりますし、『現代音楽祭』と称して特殊な人だけ集めるのではなく、日常で普通に聴かせる必要があると思うのです」。

つまり「序曲、協奏曲、交響曲」という定型プログラムの中にも、“今日の音楽”を入れることが大事になる。

「そうしないと日本の作曲家なんて育たないですよ。“現代音楽”の特殊閉鎖社会だけでやっていたら、それで終わり。僕は『ベートーヴェンと並ぶことの苦しさを知るべきだ』と言いたい。名曲というのは、長い時間ふるいにかけてきた末に生き残っている音楽です。その曲と自作が並ぶのは、なかなかキツイ。でもそうした体験をしていかないとガラパゴス状態になってしまいます。僕は、チャイコフスキーやベートーヴェンと一緒に現代曲に接してもらうことが重要だと考えていますし、できる限り実践していきます」。

これが久石にとっては、指揮をする最大の意義でもある。

「特に長野の場合は、『音楽を観客の日常にすること』が重要になります。日本全国ですが、おそらくクラシック・ファンが、掃いて捨てるほどいるような状況ではない。その中で、親しみやすい『運命』『新世界』から入る方法もあります。しかし新しい長野市芸術館では、お客さんもピュアな分だけ、現代の音楽を古典と並べて体感してもらう方が、音楽に親しむ早道なのではないかと考えています。そのためにも、自分が指揮し続けなければならないでしょう」。

その第一歩となる本公演にかかる期待は、限りなく大きい。

柴田克彦

(しばた かつひこ／音楽ライター)

福岡県生まれ。音楽マネージメント勤務を経て、フリーの音楽ライター・評論家&編集者となる。「ぶらあば」「ぴあクラシック」「CDジャーナル」「サラサート」「バンド・ジャーナル」等の雑誌、公演プログラム、宣伝媒体、CDブックレットへの寄稿、プログラム等の編集業務を行うほか、講演や講座も受け持つなど、幅広く活動中。

グランドオープニング・コンサート 久石 譲(指揮) 読売日本交響楽団

5/8日17:00 メインホール

完 売

久石 譲：祝典序曲
(長野市芸術館委嘱作品・世界初演)
アルヴォ・ベルト：交響曲第3番(1971)
チャイコフスキー：交響曲第5番 亦短調 作品64

長野の生んだ「ピアノの詩人」 山本貴志が名器の初音をホールに刻み、 チック・コリア&小曽根真が 奔放なライブを繰り広げる!!

文:萩谷由喜子(音楽評論家)

山々に新緑の萌え出ずる5月、長野市に音楽芸術の殿堂、長野市芸術館がオープンする。1292席のメインホール、293席のリサイタルホール、そして219席を基本に多彩な客席配置の可能なアクトスペースの三つのホールを中心として、展示サロンやリハーサル室などを擁する芸術創造の拠点だ。

このうち、リサイタルホールのオープニング・コンサートとして、5月14日、長野市に生まれ育った山本貴志のピアノリサイタルが開かれる。山本の弾くピアノは久石譲芸術監督が入念に選定した名器、スタインウェイD-274。ドイツのハンブルク工場で製作されているこのモデルは、スタインウェイの最高機種で奥行き274センチ、間口157センチ、重さ約480キロ。低音の伸びがよく、中音域では一つ一つの音がピンと立ち上がり、高音域では潤いのある艶やかな響きが立ち昇る。

その名器のピアノ開きを託された山本貴志は1983年生まれ。保育園時代からピアノを習い始め、5歳で楽器メーカーの音楽教室の幼児科に入室、その後、桐朋学園大学音楽学部附属「子供のための音楽教室」長野教室に通う。中学校時代には家族の温かな理解のもと、帰宅後6時間の練習、それが済んで夜の10時によく一家で夕食、そのあと学校の勉強という毎日を送った。一方、日曜日はピアノよりも家族とのレジャーや自然と触れ合う時間を大切に、信州の野や山、高原や湖で思い切り遊んだ。

高校は東京の桐朋女子高等学校音楽科(共学)、次いで桐朋学園大学音楽学部ソリストディプロマコースに進む。そして2003年の春、ショパンの祖国ポーランドに留学、ワルシャワ・ショパン音楽アカデミーに入学した。ポーランド語の壁も乗り越え、国際ピアノ・コンクールに次々と入賞、そして2005年秋、現存する国際ピアノ・コンクールの最高峰、ワルシャワのショパン国際ピアノ・コンクールに参加して、栄えある第4位に入賞した。

筆者はこの第15回ショパン・コンクールを取材していたが、作品への没入度がきわめて高く、ショパンその人に成り変わるかのように作曲家の心情を全身で体現する山本貴志の演奏には強く惹きつけられた。ことに、第1次予選時の『スケルツォ第4番』、第2次予選で聴かせてくれたソナタ第3番短調は今も忘れ難い。

近年、彼は再びポーランドに活動拠点を移

し、現在は同国と日本を往復しながら国際的な活動を展開している。

このような経歴からみて、長野市芸術館のピアノ開きに彼ほどふさわしいピアニストはまず見当たらない。山本自身も故郷のホールのピアノ開きを楽しみにしているそう。プログラムは前半がショパン、後半がラフマニノフ。ピアニストのレパートリーの中核中の中核ともいべき珠玉の銘品が並ぶ。信州に生まれ育って世界に羽ばたいたピアニストが、今、故郷のホールのピアノ開きに駆けつける。これは絶対に聴き逃さない。

その4日後の5月18日には、今度はメインホールでエキサイティングなコンサートが開かれる。

ジャズやロックからクラシックまでジャンルを超えて聴き手を魅了する二人のマルチ音楽家の夢のコラボレーションとして『チック・コリア&小曽根真 ピアノ・デュオ プレイズ・アコースティック』が実現したのだ。

ジャズ・トランペッターを父として、1941年アメリカのマサチューセッツ州に生まれたチック・コリアはジュリアード音楽院に学んだのちピアニスト、作曲家としてキャリアを開始し、卓抜なアイディアによるオリジナル楽曲を次々と発表してきた。中でも、有名なロドリゴの『アランフェス協奏曲』の第2楽章テーマを冒頭に置いた『スペイン』は彼の代表作。古い宮殿の昔日を回顧する静かな曲調から一転、アフロ・キューバン・ルンバのリズムにのったノリのよい音楽が流れる。日本でも、一時期、麒麟生茶のTV-CMに使われていたあの曲だ。

一方の小曽根真は1961年神戸市生まれ。5歳から始めたピアノは一旦挫折するが、12歳のとき、ジャズの大御所オスカー・ピーターソンを聴いてジャズ・ピアノに開眼、19歳で渡米してボストンのバークリー音楽大学に入学した。1983年同音楽院のジャズ作曲・編曲家科を首席で卒業、この年にアルバム『OZONE』で全世界にデビュー、以来今まで、ジャズとクラシックの両ジャンルに刺激的な発信を続けてきた。

二人は30年以上も前に出会って、1996年に初協演を果たしたものの、超売れっ子同士のこと、そのあとはなかなか協演チャンスがなかった。今回、2台ピアノ・デュオ・ツアーが実現したのはほとんど奇跡といってよい。

では、その奇跡の公演の聴きどころは何

か? チラシをご覧くださいればわかるように、演奏予定曲目が1曲も発表されていない。どのように飛び立ち、どんな航跡を描いてどこにどう着地するか、すべては二人の気持ちの赴くままにある。その自由奔放な即興性こそ、この公演の醍醐味ではなからうか。

もうひとつ、小曽根真からの嬉しい贈り物は、公演前夜に同じ会場で開かれる「身体で感じる」ジャズ・ワークショップだ。小曽根が彼特有の飾り気のない、親しみやすい語り口で、ジャズの楽しみ方を伝授してくれるこのひときは、筋金入りのジャズ・ファンにも、初めてジャズに触れるビギナーにも、至福の時間となること請け合いだ。

萩谷由喜子(音楽評論家)

音楽評論家。『音楽の友』『モーストリッククラシック』の批評担当。各地でクラシック音楽講座の講師を務める。著書に『五線譜の薔薇』『音楽史を彩る女性たち』『幸田姉妹』『田中希代子』『クラシックの作曲家たち』『クラシックのピアニストたち』『諏訪根自子』『宮澤賢治の聴いたクラシック』他。

リサイタルホール・オープニング・コンサート
山本貴志 ピアノリサイタル
(STEINWAY ピアノ開き)

5/14(土)14:00 リサイタルホール

完 売

ショパン: ノクターン 嬰ハ短調 遺作
4つのマズルカ 作品41
即興曲第1番 変イ長調 作品29
舟歌 嬰ハ短調 作品60
ポロネーズ第6番 変イ長調「英雄」作品53
ラフマニノフ: 「幻想的小品集作品3」より
第2曲 前奏曲嬰ハ短調「鐘」
絵画的練習曲集 作品33

小曽根真「身体で感じる」
ジャズ・ワークショップ

5/17(日)19:00 メインホール

全席自由 ¥2,000

チック・コリア&小曽根真
ピアノ・デュオ・プレイズ・アコースティック
(YAMAHA ピアノ開き)

5/18(月)19:00 メインホール

¥10,000 A ¥8,000
B ¥6,000 C ¥4,000

芸術とエンタテインメントが生まれ集まる場、
共有できる“場”がいよいよ誕生、
芸術監督・久石譲と共にその芽を育てるべく
歴史に残る1年目のシーズンが幕を開ける。

文:オヤマダアツシ(音楽ライター)



「それを作れば、彼がやって来る」

謎の声に導かれて広大な農場に野球場を作ってしまった男の物語『フィールド・オブ・ドリームス』(ケビン・コスナー主演、1990年日本公開)は、“場”というものの精神的なパワーについて教えてくれた名画だった。

アート発信地となる長野市芸術館(以下、NCAC)も、新しい集いの場として生まれ、大切なものを持ち寄り持ち帰ったりできる場になるだろう。しかし単に「場を作る」という作業で満足することなく、そこに魂を吹き込んで時間の流れを生み出す者がいなくてはならない。その役目を担うのは言うまでもなく、芸術監督に就任した久石譲だ。久石が語る「そこに行けば何かがある」というシンプルなコンセプトは、オープニング・シーズン(2016年5月～2017年3月)を彩るさまざまなコンサートやレクチャーという形で人と場を刺激し、新しく始まる歴史の流れに勢いをもたらしてくれる。

芸術監督・久石譲の 真髓へ迫るコンサートも多数

その久石芸術監督はこけら落とし公演となる5月8日の**グランドオープニング・コンサート**を指揮するが、6月以降も自作の演奏ほか、多くのコンサートでNCACのステージに登

場する。多くの方にとって久石譲は、スタジオジブリ作品や北野武監督作品をはじめとする「映画音楽の作曲家」という認識が強いだろう。しかし、コンサートのために書かれた作品も多く、さらに近年はブラームスやマーラー、シヨスタコーヴィチなどの交響曲を指揮する活動にも積極的なのだ。NCACのコンサートではそうした側面に光を当て、「音楽家・久石譲」に注目しながら多彩な音楽と出会えるチャンスを提供していく。「グランド・オープニング・コンサート」で世界初演される「祝典序曲」はもちろん、秋山和慶指揮・新日本フィルハーモニー交響楽団のコンサート(7月18日)でも自作が演奏される。また、現代の重要な作曲家としてイチ押しのアルヴォ・ペルトによる作品が複数のコンサートで取り上げられるのも、久石芸術監督の意向だ。

さらに注目したいのは、久石が学生時代から魅了されてきた**ミニマル・ミュージック**に親しむための**ワークショップ**(7月15日)。テリー・ライリーやステイヴ・ライヒなど、いわゆる現代音楽に属する作曲家たちだが、繰り返しのリズムパターンはワールド・ミュージックやロックに通じるものがあり、参加者がその場で新しい音楽を創造するという楽しみも用意されているはず。クラシック音楽ファン以外、

いや演劇やダンスのファンにも参加して欲しいスペシャル・イベントである。

NCACの夏フェス 『アートメント NAGANO 2016』

オープニング月間となる5月のコンサートに続き、6月には「天使の歌声」と称される**ウィーン少年合唱団**(シュベルト組)が来演(6月9日)。クラシックの名曲や映画音楽などが聴ける幸福なひとときであり、家族で楽しめるコンサートの筆頭だ。6月はアコーディオンの鬼才である**coba**も来演するが(6月25日)、なんと彼は長野市出身。つまりは凱旋コンサートになるため、ホットでフレンドリーな雰囲気になることだろう。人気ギタリスト、押尾コータローとの共演も話題沸騰だ。

7月になると、NCACの楽しさはさまざまなジャンルへと広がっていく。7月14日から29日まで開催される『**アートメント NAGANO2016**』は、コンサートやレクチャー、参加型ワークショップなどが連日行われる、言わば「NCACの夏フェス」だ。クラシックは、いよいよ初お目見えとなる**「ナガノ・チェンバー・オーケストラ」**(久石譲指揮)、東京から来演する**新日本フィルハーモニー交響楽団**(秋山和慶指揮)、日本の合唱界にお



ける頂点として長く活動している**東京混声合唱団**、そして**5人のピアニストによるベートーヴェンの交響曲全9曲**(フランツ・リストによるピアノ編曲)など充実したもののばかり。また日本の芸能を紹介していくこともNCACの特徴であり、この期間には日本舞踊家集団「**弧の会**」によるオリジナル作品(諏訪の御柱祭をモチーフに創作された演目など)や、世界的に有名な和太鼓集団「**鼓童**」による公演が行われる。どちらもデモンストレーションやワークショップがあり、伝統芸能を身近に感じるチャンスだ。

ほかにも善光寺本堂におけるオープニング奉納コンサート(久石芸術監督も出演)や、市内各所で行われる**フラッシュ・モブ**(サプライズで始める演奏やダンス等)、若手の音楽家たちがホールを飛び出して音楽の楽しさを広める**クラシック音楽キャラバン**、久石芸術監督による**フィナーレ公演**など、日常的にアートやイベントと出会うチャンスがたくさんあるだろう。

私たちのオーケストラ「NCO」が本格始動

その『アートメントNAGANO2016』で始動するのが、NCACが特別編成する室内オーケストラとなる「**ナガノ・チェンバー・オーケストラ**」(以下、NCO)。つまり聴衆にとっては「応援できる私たちのオーケストラ」がもてるということだ。メンバーは国内の主要オーケストラから厳選された音楽家たちばかり。すべての公演でリハーサルを一部公開する予定だといふから、音楽がどのように作られていくのかを知ることができるだろう。

そのNCOが定期演奏会で取り組むのは、ベートーヴェンの交響曲全9曲制覇というプロジェクト。全7回、2016年7月から2018年7月まで約2年をかけて番号順に演奏していく。ベートーヴェンの交響曲といえば、クラシック

音楽においては定番中の定番。それだけに、よく知る人はさらに深く、クラシック入門者にとってはじっくりとベートーヴェンへ近づく道として、最適のシリーズになるのは間違いない。

さらには第1回定期演奏会(7月16日)に先駆けて、同日のコンサート前には音楽評論家や作曲家による特別講座「**ベートーヴェンを知ろう!**」も開催。並行企画として5人のピアニストがリスト編曲によるベートーヴェンの交響曲全9曲を、なんと1日で連続演奏するという破格の**マラソン・コンサート**(7月23日)も用意されている。多角的にベートーヴェンを知ること、交響曲の聴き方が大きく変わるはずだ。

子どもたちとファミリーに開放される8月のNCAC

8月は言うまでもなく夏休み期間。NCACは『**サマー・キッズ・デイズ NAGANO**』と題して多彩な企画を用意。子供たちを中心に家族で楽しめるコンサートやイベントがそろっている。

特に注目されるのは、コンサートが軒並み売り切れとなる人気アンサンブル「**ズーラシアン**」プラス&弦うさぎによる「**音楽の絵本**」だろう(8月7日・8日)。オカピ指揮者をはじめ、稀少な動物たちによって結成されたという金管五重奏とうさぎ四姉妹による弦楽四重奏だが、その魅力は子どもたちが喜ぶルックスだけではない。演奏やしゃれた演出などステージすべてが楽しく、特に吹奏楽をやっている学生たちにはお薦めしたい超一級の演奏。ファミリーで思いきり楽しめるコンサートをお探しの方には、心からおすすめできるエンタテインメントなのである。

ほかにも、ピアノ練習曲の作曲家として有名なブルクミュラーの音楽とアンデルセンの童話を組み合わせた音楽紙芝居「**月夜のナイチンゲール**」や、ユーモアあふれるパフォ

ーマンス・デュオ「**シルク・イナシュヴェ**」のステージ、親子で参加できる能楽体験、そして参加型レッスンなども含む東京バレエ団の子どものためのバレエ「**ドン・キホーテの夢**」など、多彩な企画が用意されている。ぜひ、お子様たちにコンサートホールで過ごす時間の素晴らしさを体験していただきたい。

充実した秋のコンサートはクラシック・ファン必聴

夏の残暑から「芸術の秋」へと季節が移り変わる9月からは、再び多彩なコンサートが目白押しだ。まずは吹奏楽ファン必聴のコンサートが2つ。さまざまな名曲をわかりやすく解説してくれると話題の**茂木大輔**が、シエナ・ウインド・オーケストラと共に登場して吹奏楽の名作やジャズのビッグバンド・ナンバーを演奏(9月4日)。NHK交響楽団の首席オーボエ奏者でありながら、愉快的著書も多数ある茂木が人気沸騰のシエナと組むのだから、楽しいコンサートになるのは当然だろう。加えて、こちらも絶大な人気を誇る**侍BRASS**が長野に初見参るコンサートも聴き逃さない(9月25日)。コンサート前日にはクリニックも開かれるので、憧れのプレイヤーに音楽や楽器を習うチャンスだ。

オーケストラ・ファンには、10月からスタートするシリーズ『**オーケストラでめぐる世界音楽の旅**』を。初回は梅田俊明の指揮による東京交響楽団、ピアニストの横山幸雄が登場し、ロシアの名曲がホールに鳴り響く(10月1日)。また北陸新幹線の開通で絆が深まった金沢からは、鬼才・井上道義に率いられて**オーケストラ・アンサンブル金沢**がやって来る(11月6日)。多くのクラシック音楽ファンを感動させてきたベテラン・ピアニスト、イェルク・デームスがソリストとして同行するのうれしい。



© Jan Eytan

音楽への理解を深めたい方には、 気軽に学べる講座も

世界的に活躍する**神尾真由子**(ヴァイオリン)と、息の合った演奏を聴かせる**ミロスラフ・クルティシエフ**(ピアノ)も、今注目のデュオだ(10月22日)。またヴァイオリン×2+ピアノというアコースティック・トリオ「**TSUKEMEN**」は、ポップスのテイストも交えた人気アンサンブル(11月19日)。さらには早くもクリスマスになると、人気音楽祭「ラ・フォル・ジュルネ」の常連でもあるア・カペラ・グループ「**VOCES8**(ヴォーチェス・エイト)」が登場し、クリスマス・イヴを美しいハーモニーで彩る(12月24日)。そしてニューイヤーを祝うのは、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の現役または伝説的プレイヤーたちが集う「**ウィーン・リング・アンサンブル**」だ。ワルツやポルカなどを本場の香り漂う演奏で聴けるのは、なんとという贅沢&幸福だろう(2017年1月9日)。

最後に、観て&聴いて楽しむだけではなく、より音楽を理解したい方には『**NCAC音楽大学**』というシリーズ講座や、人気ピアニストの**小川典子**によるアマチュア・ピアニスト向けマスタークラスなどがあることも紹介しておきたい。また演劇ホール「アクトスペース」では**宮沢賢治**をテーマにした公演や、市民参加型の**演劇創作プログラム**などが充実。ワークショップのリーダーとなる「**ファシリテーター**」の養成講座もあり、NCACでカルチャーリーダーとなれるチャンスもある。ゆくゆくはNCACだからこそ可能な、音楽と演劇またはダンス等のコラボレーション企画が生まれることに期待したい。

オヤマダアツシ (音楽ライター)

音楽ライターとして、音楽家のインタビューや音楽誌・情報誌・インターネットメディアなどでの記事執筆、コンサートの曲目解説などを執筆。また「ラ・フォル・ジュルネ」音楽祭のクラシックソムリエほか、クラシック音楽をより深く楽しむためのトークも行っている。1960年生まれ。

長野市芸術館オープニング・シリーズ公演一覧

グランド・オープニング・コンサート 久石 譲(指揮) 読売日本交響楽団 5月8日(日) 17:00 メインホール アクトスペース・チャレンジ2016 地域創作プログラム「KENJI」 5月11日(水) 18:30、12日(木) 14:00 アクトスペース リサイタルホール・オープニング・コンサート(STEINWAYピアノ開き) 山本貴志 ピアノリサイタル 5月14日(土) 14:00 リサイタルホール 小曽根真「身体で感じる」ジャズ・ワークショップ 5月17日(火) 19:00 メインホール チック・コリア&小曽根真 ピアノ・デュオ・ブレイズ・アコースティック(YAMAHAピアノ開き) 5月18日(水) 19:00 メインホール Canon Presents ウィーン少年合唱団 6月9日(木) 19:00 メインホール cobaスペシャル・ライブ at NCAC!! 6月25日(土) 18:00 メインホール クラシック音楽キャラバンEX[1] (非公開) 春季 市内小学校	茂木大輔☆クラシックまるわかりレクチャーコンサート Vol.1 吹奏楽編 シェナ・ウィンド・オーケストラ 9月4日(日) 15:00 メインホール 侍BRASS アンサンブル・クリニック アドリブ講座 9月24日(土) メインホール 侍BRASS 2016 川中島 9月25日(日) 15:00 メインホール オーケストラでめぐる世界音楽の旅 Vol.1「ロシア」 梅田俊明(指揮) / 東京交響楽団 / 横山幸雄(ピアノ) 10月1日(土) 16:00 メインホール 神尾真由子(ヴァイオリン) ミロスラフ・クルティシエフ(ピアノ) デュオリサイタル 10月22日(土) 14:00 メインホール 宮沢賢治生誕120年記念・小池博史ブリッジプロジェクト 仙台版「風の又三郎」2016 10月22日(土) 23日(日) アクトスペース 井上道義(指揮) / オーケストラ・アンサンブル金沢 イェルク・デームス(ピアノ) 11月6日(日) 15:00 メインホール TSUKEMEN Nagano Live! 11月19日(土) 開演時刻未定 メインホール
アートメントNAGANO 2016 善光寺・奉納コンサート 久石 譲(ピアノ) / ナガノ・チェンバー・オーケストラ(NCO)メンバーによる室内楽 7月14日(木) 19:00 善光寺本堂 久石 譲 ミニマル・ミュージック・ワークショップ 7月15日(金) 19:00 リサイタルホール ナガノ・チェンバー・オーケストラ第1回定期演奏会 + NCAC音楽大学「音楽の分かる大人になろう!」講座DX 7月16日(土) 14:00 (プレ講座) 16:00 (公演) メインホール ナガノ・チェンバー・オーケストラ第2回定期演奏会 7月17日(日) 15:00 メインホール 秋山和慶(指揮) / 新日本フィルハーモニー交響楽団 プレート・ク:久石譲 7月18日(月・祝) 16:00 メインホール 長野市の文化・芸能レクチャー&デモンストレーション 「長野市の文化…扉を開けると!」 7月20日(水) 19:00 リサイタルホール 狐の会日本舞踏公演「コノイズム」(御柱祭) 7月21日(木) 19:00 メインホール 鼓童ワン・アース・ツアー2016~混沌 7月22日(金) 19:00 メインホール 鼓童メンバーによる初心者のための太鼓ワークショップ 7月23日(土) 10:30 メインホール ピアノ de ベートーヴェン・シンフォニー・マラソン 岡田 将 / 菊地裕介 / 松本和将 / 関本昌平 / 若林 顕(ピアノ) 7月23日(土) 13:00 リサイタルホール 東京混声合唱団「合唱の祭典」 7月24日(日) 14:00 メインホール	すべてのピアノ愛好家に贈る ~小川典子スペシャル・マスタークラス&ミニ・コンサート 12月10日(土) 14:00 リサイタルホール 小学生のための人形劇ワークショップ 講師: たいらじょう(人形劇俳優) 12月10日(土) 11日(日) アクトスペース 「よだかの☆星」/ セロ弾きのゴージュ たいらじょう(人形劇俳優) 12月17日(土) 18日(日) アクトスペース VOCES8 クリスマス・コンサート 12月24日(土) 開演時刻未定 メインホール ウィーン・リング・アンサンブル New Year Concert 1月9日(月・祝) 開演時刻未定 メインホール 音楽大学受験生のための実技模擬試験 (非公開) 1月14日(土) リハーサル室 ミュージカル落語「宮沢賢治」 三遊亭究斗(落語家) 1月15日(日) アクトスペース ナガノ・チェンバー・オーケストラ第3回定期演奏会 2月12日(日) 15:00 メインホール クラブNCAC ミステリー・ジャズナイト 出演者: 曲目は公演時まで非公開 2月日時未定 アクトスペース 二兎社公演41「エンジェルズ・イン・ジャパン(仮題)」(新作) 2月25日(土) 13:00 メインホール オペラ「想稿・銀河鉄道の夜」 3月18日(土) 19日(日) アクトスペース
クラシック音楽キャラバンEX[2] フェロー・サクソフオーン・カルテット 7月24日(日) 17:00 松代・真田邸 クラシック音楽キャラバンCafé 11:00 クラシック音楽キャラバン登録アーティストによる アウトリーチ・ガラ公演 19:00 Everly 大人のためのアウトリーチ・ライブ 7月26日(火) 11:00/19:00 松代・寺町商家 Everly ライヴ!! 7月27日(水) 19:00 アクトスペース 久石 譲によるフェスティバル・フィナーレ公演 7月29日(金) メインホール 長野市民によるフラッシュ・モブ 7月12日(火) ~ 7月29日(金) 長野市内各所	地域の舞台芸術人材育成プログラム 演劇ワークショップ&ファシリテーター養成講座(全8回) 講師: わたなべなおこ 8月~3月(月1回) 創作のための舞台技術活用講座① 「舞台に雨を降らす」には(全3日間) 3月1日(水) 2日(木) 3日(金) アクトスペース クリエイション・ミーティング ~アクトスペース企画会議(全3回) 日時未定
サマー・キッズ・デイズ NAGANO シルク・イナシュヴェ(ジャグリング&バントマイム) 8月4日(木) 19:00、5日(金) 11:00 アクトスペース 親子のためのクラシックコンサート「音楽の絵本」 2days ズーラシアン・ブラス(金管五重奏) / 弦うさぎ(弦楽四重奏) 8月7日(日) 8日(月) 各11:00 メインホール ピアノと語りつづる音楽紙芝居 アンデルセン童話「ナイチンゲール」とブルクミュラー 「やさしい花」による「月夜のナイチンゲール」 音の台所・茂木淳子(構成・イラスト・語り) / 川津直子(ピアノ) 8月7日(日) 14:00 リサイタルホール 親子 de 能楽体験!! 8月8日(月) 14:00 アクトスペース 東京バレエ団 子どものためのバレエ「ドン・キホーテの夢」長野公演 関連企画「トウシューズを知ろう!」「ティアラを作ろう!」など予定 8月11日(木) メインホール・アトリエ・演劇練習室 ほか	NCAC音楽大学・各種講座 NCAC音楽大学「音楽の分かる大人になろう!」講座(全7回) 講師: 柴田克彦(音楽ライター / 音楽評論家) 9月22日(木・祝) / 10月30日(日) / 11月27日(日) / 12月23日(金・祝) / 1月29日(日) / 2月26日(日) / 3月26日(日) 各14:00 リサイタルホール NCAC音楽大学「リトミック」講座(全5回) 講師: 坂本真理子(全日本リトミック音楽教育研究会常任理事) 10月3日(月) / 11月7日(月) / 12月5日(月) / 2月6日(月) / 3月6日(月) 各11:00親子向け 各13:00大人向け リハーサル室 NCAC音楽大学「音楽華道」講座(全3回) 講師: 前野博紀(華道家) 11月20日(日) / 12月11日(日) / 1月8日(日) 各14:00 リハーサル室

50年の記憶を、これからの未来へ重ねる。



1961年、旧・長野市民会館はかつて牧場で道路もアスファルトではなく土だった所に竣工し、幕を降ろす2011年まで50年もの間、長野市民の数えきれないほどの思い出が残る文化的コミュニティの場であり続けました。その旧・長野市民会館への思いをこれから継承していく長野市芸術館。展示サロンでの記念すべき第1回目の企画展は、そんな50年の色鮮やかな記憶とこれからのほのかな未来が浮かび上がります。企画は「REMONCH（れもんち）」の皆さん。2010年に「長野市民会館50年の記憶」を出版した「門前研究会」から生まれた組織で、建築家、デザイナー、編集者などの市民有志によって構成されています。メンバーの宮本圭さんは「旧・長野市民会館も、当初の図面だと市役所と合築だったんです。議論は当時も今も、歴史が繰り返されていることはおもしろいし、かつての市民会館の営みから学ぶことはたくさんある。どれだけ最新の設備を取り入れても、数年後には“使いづらい”と言われる。だったら、建物の性格をよく理解した上で、使っていくのが大切だし、文化が育つてそういうことなのじゃないかと」と話します。また、同メンバーの山口美緒さんは「本の編集で、みなさんから原稿を集めるとすごくあたたかいものがありました。それらがノスタルジーで終わらずに、真っ白な今の市芸術館のこれからの営みに重なって厚みを増していったらいいと思います」とのこと。企画展ではパネル等の展示のほか、旧・長野市民会館の象徴でもあったレンガやPCブロックのほか、座席案内、棟札などのアーカイブが再びお目見えします。市民会館から芸術館への“時”と“場所”を一緒に見つめましょう。

文：加藤靖司（NCAC美術事業担当）



『長野市民会館50年の記憶』

旧・市民会館の記憶を残したいと願う人が集まり、さまざまな視点より市民会館への思い、記録をまとめた書籍。

発行／信濃毎日新聞社（第1刷）

企画／長野市民会館記録編集会議「remonch」

価格／¥1,050（税込）

発売／平成23年3月20日（日）

長野市民会館50年の記憶と新しい記憶展（仮）

4/29(金)～7/3(日) 10:00～19:00予定（火曜休／5/27～29休）
入場無料

「暮らす」まちで、「創る」劇場を。



「アクトスペースチャレンジ」は、長野市芸術館内にある演劇練習室やアトリエ（作業場）などの創造支援機能を活用し、長野市では初となる客席可変のフレキシブルな小劇場空間「アクトスペース」にて公募市民とともに本格的な舞台作品を創作するプログラムです。

いよいよ開館まで1か月半となった3月21日、[KENJI]の演出家・振付家である小池博史さんが長野市芸術館を訪れ、作品の構想を練るためのワークショップ・オーディションとサポートスタッフの事前オリエンテーションが行われました。今回のパフォーマー募集では、37歳の若さでこの世を去った青年・宮沢賢治にちなみ、18歳から35歳までの世代を対象を絞って参加を呼びかけました。長野市内で働きながら演劇・ダンスの活動をしている人、都内の大学へ進学し演劇や映画を学んでいる人など、志あふれる若き明日の担い手たちが各地から集い、その真剣なまなざしと一挙一動から、地元・長野で新しい劇場の誕生と共にスタートする創作活動への期待が伝わってくる熱気に満ちたワークショップが展開されました。小池さんの構想や地元スタッフのプランニングの方向性も見え始め、いよいよ4月29日から5月10日までの約2週間をかけた創作プログラム[KENJI]のプロダクションが、芸術館開館に先駆けてスタートします。公演期間中には、『地域創作のゆくえ』と題した、地方都市において本格的な創造活動を継続的に実施するためには何が必要なのかを考えていくシンポジウムも開催予定です。「アクトスペース」ならではの創造のプロセスを重視したこけら落としプログラム“アクトスペースチャレンジ2016[KENJI]”にどうぞご期待ください！

文：栗田康弘（NCAC演劇事業担当）

アクトスペース・チャレンジ2016 地域創作プログラム[KENJI]

5/11(木)18:30 12(金)14:00 アクトスペース
入場無料

わたしたちの芸術館、
始める はじまる。



昨年の7月、長野市芸術館の外観がすっかり姿を現し、建築内部の工事にかけ始めた頃、「長野市芸術館・開館記念共催事業」の募集を開始しました。当時、まだホールの特長や設備の様子も図面の上でしかわからない状況でしたが、これから生まれようとしている芸術館をわが子のように祝福し、共に育てていこうという思いを共有していただいた、たくさんの市民・グループ・企業の皆さんから、創意あふれるさまざまな企画が寄せられました。

いよいよ初夏の緑がまばゆく映える6月から、33日間に渡り37団体39企画が長野市芸術館の3つのホールを「文化芸術の新しい風」となって、すすがしく吹き抜けていきます。クラシック・ポップス・ジャズ・合唱・演劇・ダンス・落語・美術・トークセッション・子どもワークショップなど、芸術館の未来へ向けたアイデアや思いのこもった多種多様なプログラムが市民の皆さんの手によって企画されております。詳しくは「長野市芸術館 開館記念共催事業ラインナップ パンフレット」をご覧ください。みんなが集まって「始める」時、コミュニティとしての公共ホールが生まれ、そして「はじまる」のだと思います。この機会にいろんな活動や舞台に出会いに来てください。そして一緒に始めましょう、「わたしたちの長野市芸術館」。

文：栗田康弘 (NCAC開館記念共催事業担当)

～文化芸術の新しい風～
長野市芸術館 開館記念共催事業

6/1(木)～7/3(日)
メインホール・リサイタルホール・
アクトスペースほか

音楽の都ウィーンの
伝統を受け継ぐ
イマドキのボーイソプラノたち。
14年ぶりの長野公演。



澄み切った歌声、豊かな表現力で、世界中から愛されているウィーン少年合唱団。古くは「歌曲王」として知られる作曲家、シューベルトも在籍したという長い歴史を持ち、彼らの存在なしに西洋音楽史は語れないほど、クラシック界において重要な存在です。

クラシックの分野での評価の高さはもちろんですが、彼らのレパートリーは意外なほど幅広く、実はポップスにまで及んでいます。YouTubeで聴いて彼らの新たな魅力を知り、最近になってファンになったという方々も多いのではないのでしょうか？

クラシックで鍛え上げられた彼らの歌声は、ポップス専門の少年合唱団とはやはり一味違います。本格的な歌唱を求めるクラシックファンにとっても、爽やかで軽やかな音楽を聴きたいポップスファンにとっても、聴きごたえのあるボーイソプラノ集団として更なる注目を集めています。

今回の来日プログラムのメインは映画音楽。長野市芸術館芸術監督である久石譲のジブリ映画作品も含まれます。もちろんクラシックの有名曲も存分に堪能できます。ボーイソプラノの魅力がぎゅー詰まった、文字通り誰もが楽しめるコンサートです。

文：牟禮美華子 (NCAC音楽普及事業担当)

Canon Presents ウィーン少年合唱団

6/9(金)19:00 メインホール

¥6,000 ¥5,000 ¥4,000 ¥3,000

オルフ：カンタータ「カルミナ・ブрана」より

モーツァルト：歌劇「魔笛」より

ロジャース／ハマースタインⅡ：

映画「サウンド・オブ・ミュージック」より

エルトン・ジョン／ティム・ライス：

映画「ライオン・キング」より

久石譲：映画「天空の城ラピュタ」より

菅野よう子：花は咲く

岡野貞一：ふるさと

ウェルナー：野ばら ほか

とにかくポップです！
鬼才 coba オン・ステージ!!



鬼才、奇才、天才!？ 長野市芸術館のオープニングにこの方が出ないわけがない! 多数のCM音楽や番組テーマなどの作曲でもお馴染み、アコーディオン奏者のcobaが、バンドメンバーをたがえて6月にメインホールに登場します。松代町出身のエンターテイナーの、まさに凱旋ライブとなるこの公演では、クラシックの名曲から自作曲までの幅広いレパートリーでcobaワールド全開! 盛り上がること間違いなし。

自作曲と言えば…10年ほど前まで放送されていた、幅広い世代に人気を博した古館伊知郎さん出演のTV番組「おしゃレカンケイ」のなかで、ゲストへのメッセージを読み上げる際に流れたちょっとセンチメンタルな《16小節のラブソング》、覚えていらっしゃる方も多いのでは? この曲も実はcoba作。正式なタイトルは《過ぎ去りし永遠の日々》。この公演でも聴けてしまいますよ。

そしてなんと、超人ギター・テクニクと独特なギター・アレンジで絶大な人気を誇る世界的アコースティックギタリスト、押尾コータロー氏の緊急出演が決定しました! cobaとの丁々発止の超絶ブレイク合戦に乞うご期待!

文：長谷川綾 (NCAC音楽事業担当)

cobaスペシャル・ライブ
at NCAC!!

6/25(日)18:00 メインホール

¥5,000 ¥4,000

長野市から発信する、
夏の音楽フェスティバル

アートメント NAGANO 2016

2016年夏、「世界のNAGANO」を目指す音楽フェスティバルが、ついに始動。クラシックからコンテンポラリーまで、音楽、伝統芸能、舞踊…あらゆるジャンルを超えて、五感をゆさぶる感動の体験の舞台が、歴史と文化とスポーツの街・長野で開かれます。

長野市から、日本全国、そして世界へ、「アートメント Art'ment」を発信する音楽フェスティバルを開催します。

「アートメントArt'ment」とは、芸術監督である久石譲が提唱する「アート」と「エンタテインメント」を掛け合わせた造語。芸術とエンタテインメントの垣根をとりはらい、子どもから大人まで、日常の中で楽しめるさまざまなアートを紹介します。舞台となるのは、善光寺をはじめ、市の新しい顔となった長野市芸術館。芸術監督・久石譲のアイデンティティでもあるミニマル・ミュージックや現代の音楽に焦点を当てた革新的なコンサートや、地元・長野の伝統芸能をラインナップ。

伝統から最先端まで、未来に残したいアートを新しい体験とともにお届けします。

善光寺・ 奉納コンサート

久石譲(ピアノ)
ナガノ・チェンバー・オーケストラ(NCO)
メンバーによる室内楽



©善光寺

7/14(金)19:00

善光寺本堂(内陣)

全席自由 入場無料・要整理券

久石譲：祈りのうた～Homage to Henryk Górecki～(2015)
アルヴォ・ペルト：鏡の中の鏡 (1978)
久石譲：Kids Return / Quartet / Madness
ほか

長野市の象徴である善光寺本堂にて、フェスティバルのオープニングを飾ります。フェスティバル提唱者である芸術監督・久石譲によるピアノと、このフェスティバルでデビューするナガノ・チェンバー・オーケストラの弦楽器奏者による室内楽で贈る無料公演。国宝善光寺本堂でおこなうピアノを使用する本格公演は話題必至。

協力：善光寺

〔整理券申込〕
アートメントNAGANO事務局にて
往復ハガキで受付

久石 譲 ミニマル・ミュージック・ ワークショップ

講師：久石譲



7/15(土)19:00

リサイタルホール

全席自由 入場無料・要整理券

テリー・ライリー：In C
スティーヴ・ライヒ：クラッピング・ミュージック ほか

久石譲が、アートメントの核となる「アート」の部分をレクチャー。ナガノ・チェンバー・オーケストラのメンバーによる実演を交えながら、監督のアイデンティティとも言えるミニマル・ミュージックを素材に、「現代の音楽」の楽しみ方、聴き方などを紹介。芸術監督自身の言葉で聞くことで、フェスティバル全体に対する聴衆の興味を誘います。

〔整理券申込〕
アートメントNAGANO事務局にて
往復ハガキで受付

久石 譲(指揮) ナガノ・チェンバー・ オーケストラ(NCO) 第1回定期演奏会

久石譲(指揮)
近藤薫(コンサートマスター)
プレ講座：NCAC音楽大学「音楽の分かる大人になろう!」講座DX
講師：柴田克彦(音楽ライター)
加藤昌則(作曲家/ピアニスト)
伊熊よし子(音楽ジャーナリスト)
トークゲスト：久石譲(予定)



7/16(日)

14:00(プレ講座) 16:00(公演)

メインホール

全席自由 入場無料・要整理券

全席自由 入場無料・要整理券

ヴィヴァルディ/久石譲：ラ・フォリア

グレンツキ：あるポルカのための小レクイエム

作品66

ベートーヴェン：交響曲第1番 八長調 作品21
芸術監督・久石譲が長野市芸術館で立ち上げる室内オーケストラのデビュー公演。久石が敬愛してやまないベートーヴェン・シンフォニー・ツィクルスを長野で開始します(2018年7月まで全7回公演完結)。記念すべき第1回はNCAC音楽大学「音楽の分かる大人になろう!」講座でベートーヴェンについてレクチャーを受けた後、実際に演奏を聴くという贅沢な二部構成です。

久石 譲(指揮) ナガノ・チェンバー・ オーケストラ(NCO) 第2回定期演奏会

久石譲(指揮)
近藤薫(コンサートマスター)



7/17(日)15:00

メインホール

全席自由 入場無料・要整理券

全席自由 入場無料・要整理券

久石譲：シンフォニア

～室内オーケストラのための～

ウラディー・ミル・マルティノフ：

カム・イン!(1988)

ベートーヴェン：

交響曲第2番 二長調 作品36

ナガノ・チェンバー・オーケストラ2公演目。ベートーヴェンのみならず、このオーケストラのために久石の手による作品と、コンサートマスター近藤薫氏が愛してやまない、ただひたすらに美しいマルティノフ作品も必聴!

秋山和慶(指揮) 新日本フィルハーモニー 交響楽団

開演15分前より久石譲による
プレ・トークあり



7/18(月)16:00

メインホール

全席自由 入場無料・要整理券

全席自由 入場無料・要整理券

全席自由 入場無料・要整理券

久石譲：シンフォニック・ヴァリエーション

“メリーゴーランド”

ジョン・アダムズ：

ドクター・アトミック・シンフォニー(2007)

ドヴォルザーク：

交響曲第9番 水短調 作品95「新世界より」

久石譲と親交の深い指揮者、巨匠・秋山和慶が遂に長野に登壇!!

久石自身の選曲による「現代の音楽」とクラシックの人気曲ドヴォルザークの《新世界より》で、アートメントの真骨頂である「アート」の最先端を聴かせます。ミニマル・ミュージックを提唱するアメリカの現代作曲家、ジョン・アダムズ作曲のオペラ《ドクター・アトミック 原爆博士》を交響曲に改変した作品は演奏される機会が世界でも少ない貴重なもの。長野の皆様、ぜひお聴き逃しなく!!

長野市の文化・芸能 レクチャー& デモンストレーション 「長野市の文化… 扉を開けると!!」

～「日本舞踊」の世界と「長野音楽史」…
善光寺大本願発祥の箏・正派生田流～
その意外な関係とは
弧の会メンバー
(レクチャー&デモンストレーション) ほか



7/20(水)19:00

リサイタルホール

全席自由 入場無料・要整理券

長野市の文化をあらゆる側面から掘り起こし、新しい光を当てる試みです。意外な発見と出会うチャンスかも知れません。今回は、能・狂言と並ぶ伝統的な身体表現「日本舞踊」に注目!そのおもしろさ、カッコよさの秘密を楽しくわかり易く解き明かすとともに、音楽と密接な関係にある日本舞踊の見地から、長野市発祥の箏・正派生田流にスポットを当てます。日本舞踊家集団・弧の会メンバーによる、「観て納得!聴いて納得!」まさに一挙両得のレクチャー&デモンストレーションです。

弧の会日本舞踊公演 コノカイズム 《御柱祭》

弧の会(日本舞踊家集団)
地元演奏家(予定)



7/21(木)19:00

メインホール

全席自由 入場無料・要整理券

全席自由 入場無料・要整理券

全席自由 入場無料・要整理券

はじめ式/信楽狸/御柱祭

ダイナミックかつ圧倒的迫力で魅せるステージが大きな注目を集めている男性舞踊家集団「弧の会」。その代表作が《御柱祭》です。7年に一度行われる信州・諏訪大社の御柱祭を素材に創作されたオリジナル舞踊を、当たり年の本年、御柱信仰の宿る長野市で上演する記念碑的の公演になります。また、長野市で生まれた箏曲の正派生田流。正派を代表する作曲家・演奏家である唯是震一(唯是)の作品《信楽狸》を、地元で活躍する演奏家と共に上演予定。「広く長野市の文化を知り、市民の皆様と共に新たな文化を創出する」…長野市芸術館の目指す理想的な公演に位置づけられます。

鼓童創立35周年記念第一弾公演 鼓童ワン・アース・ ツアー2016～混沌

演出:坂東玉三郎 出演:鼓童



**7/22@19:00
メインホール**
S¥5,000 A¥4,000
B¥3,000

2016年に創立35周年を迎える太鼓芸能集団・鼓童。近年、和太鼓だけではなく「太鼓」全般にその活動範囲を広げています。タイヤや楊琴、フルートやドラムセットなど従来の鼓童のイメージを覆す様々な楽器が次から次へと登場する最新作は、まさに「カオス」「混沌」。前代未聞の圧巻のパフォーマンスは、さながら鼓童による音楽ライブです!

鼓童メンバーによる 初心者のための 太鼓ワークショップ



**7/23@
10:30 (90分間・休憩あり)
メインホール**
参加料:大 人¥1,500
子ども(小学4年生~中学生)¥1,000
聴講料:¥500
(ワークショップを客席にて聴講いただけます)

太鼓文化が根付く長野市で鼓童がワークショップを実施するのは初めての試み。太鼓を叩くという原始的アクションを通じて、豊かな音楽性を育みます。大人のみなさんご参加もOK。ワークショップを見るだけ聴くだけでもOKです。

[参加申込]
アートメントNAGANO事務局にて
電話受付

ピアノ de ベートーヴェン・ シンフォニー・マラソン

~5人のピアニストによるもうひとつの
ベートーヴェン交響曲全曲演奏会
(リスト編曲版)~



**7/23@13:00
リサイクルホール**
(21:00頃終演予定 / 休憩あり / 曲
間でご入退場自由)
全席自由 ¥4,000

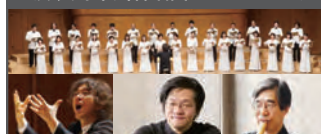
ベートーヴェン: 交響曲
第1番: 岡田将 第2番: 菊地裕介
第3番: 岡田将 第4番: 松本和将
第5番: 松本和将 第6番: 若林顕
第7番: 菊地裕介 第8番: 関本昌平
第9番: 若林顕

久石譲が開始するベートーヴェン・シンフォニー・ツクルスの事前講座として、リストのピアノ編曲版全9曲を5人の男性ピアニストが一気に演奏する全8時間(休憩含む)のマラソン・コンサート。お気に入りのピアノ・ソナタや作品で選ぶもよし、完走を目指して全曲聴き倒すもよし。同じ作品のオーケストラ演奏とピアノ演奏との違いなど、趣を変えたと新たな発見がありますよ!

後援:一般社団法人全日本ピアノ指導者協会(ピティナ)

東京混声合唱団 「合唱の祭典」

大谷研二(指揮) / 若林千春(ピアノ)
関 一郎(尺八)
共演:長野市市民合唱団コールアカデミー



**7/24@14:00
メインホール**
S¥4,000 A¥3,000 B¥2,000

14世紀のカノン: 夏は来たりぬ (1310)
ジャズカン: 鳥の歌 (1528)
ラッソ: エコー (1581)
モーリー: 今や五月 (1595)
パンキエーリ: 動物たちの音楽会 (1608)
アルヴォ・ペルト: マニフィカト (1989)
久石 譲: かぐや姫の物語
~女声三部合唱のための~
(2015, 世界初演)

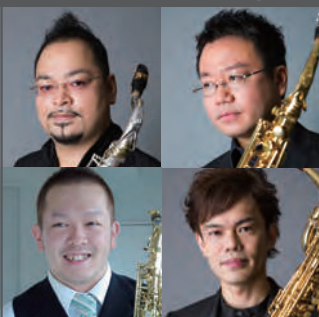
柴田南雄: 追分節考 (1973)
NEW東京混声合唱団愛唱曲集
「鳥唄」(若林千春編曲)
となりのトトロ / 鳥唄 / いつも何度
でも / 世界の約束 / 翼をください

芸術監督の作曲スタイルのひとつであるミニマル・ミュージックの原点は、中世・ルネサンス期の古楽曲にあると言われます。その原点を探るとともに、久石譲作曲「かぐや姫の物語」の世界初演、日本民謡を素材にした合唱のためのシアター・ピース「追分節考」や誰もが知っているポピュラー・ソングまでを網羅する内容で、国内屈指の合唱団の呼び声高い東京混声合唱団の出演により合唱の素晴らしさを堪能いただけます。市民合唱団コールアカデミーとの初共演も実現。

後援:長野県合唱連盟 / 北信合唱連盟

クラシック音楽 キャラバンEX[2]

フェロー・サクソフォーン・カルテット
林田和之(ソプラノサクソフォーン)
佐藤 渉(アルトサクソフォーン)
松岡一樹(テナーサクソフォーン)
西尾貴浩(バリトンサクソフォーン)]



**7/24@17:00
松代・真田邸**

全席自由入場無料
(申込不要・人数制限あり)

長野市民にクラシックに親しんでほしいという熱意を持つ若手プロ演奏家が集い、アウトリーチを学ぶクラシック音楽キャラバン。対象が絞りにくい観光施設などのアウトリーチについての研修は芸術監督・久石譲が信頼を置くサクソフォーン奏者、林田和之が講師を務めます。研修の一環として行うプロのアウトリーチ演奏家の実演を一般公開します。

クラシック音楽 キャラバンCafé



**7/26@11:00 / 19:00
松代・寺町商家**

全席自由入場無料(申込不要)

11:00[質蔵] クラシック音楽キャラバン登録アーティストによるアウトリーチ・ガラ公演
19:00[庭園] Everly 大人のためのアウトリーチ・ライブ

昼の部は、春から数か月かけて研修を行い何度も練り直し仕上げたアウトリーチ・プログラムを、クラシック音楽キャラバンの登録アーティストが初めてお披露目するアウトリーチ・ガラ公演。主屋では、質蔵から流れる演奏を聴きながら、軽食やお茶が楽しめます。夜の部は、翌日の長野市芸術館公演に先駆けて、Everlyがゲスト出演します。クラシック音楽キャラバンのアウトリーチとは一味違ったパフォーマンスで、クラシックの楽しさをお伝えします。庭での演奏を聴きながら、主屋ではお酒が楽しめる、「大人向けクラシック音楽キャラバン・番外編」です。

Everly ライヴ!!

松尾賛之(ヴァイオリン&ボーカル)
松尾悟郎(ピアノ&ヴァイオリン&コーラス)
小向 忍(クラリネット&ベース)
仲根根朝将(ギター)
Funky-Yukky(ドラムス)
ゲスト: SHIN(二胡)



**7/27@19:00
アクトスペース**
全席指定 ¥3,000

モンティ: チャールダーシュ
ピアソラ: リベルタンゴ
Everly: 僕らの未来へ
※SBC信越放送「3時はららら」エンディング曲
Everly: Opening Sky
※読売テレビ「かんさい情報ネットten」オープニング曲
Everly: クロー
※J-COMテレビ「Hello Everyone」エンディング曲

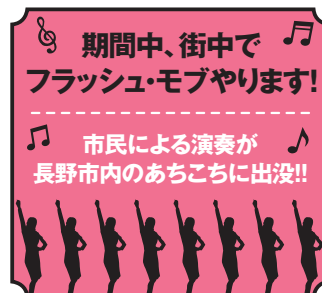
東京学芸大学出身の5人編成のボイストウルメンタル(ボイス+インストゥルメンタル)・ユニット。クラシックはクラシカルに、ポップスはバンド編成で、変幻自在に楽器を軽々と持ち替えるジャンルレスグループ。「全員参加型クラシック」で切り口豊かに音楽共体験を誘う楽しいコンサート。一緒にハジけましょう!

久石 譲による フェスティバル・ フィナーレ公演



**7/29@開演時刻未定
メインホール**
詳細近日発表

久石 譲によるアートとエンタテインメントの架け橋となるプログラミングで、フェスティバルを締めくくります。内容は追って長野市芸術館公式ウェブサイトなどで発表します。



お問合せ

アートメントNAGANO事務局
☎026-219-3192

NCAC チケットオンライン会員先行発売: 4/14 ㊦ 10:00
一般発売: 4/16 ㊦ 10:00

親子で楽しもう☆長野市芸術館の夏休み☆子どもプログラム

サマー・キッズ・デイズ NAGANO「芸術館で大冒険!!」

難しくて近寄りたがたいと思われがちな「芸術」を遊びながら親子で堪能して頂きます。動物たちによる超一級演奏、紙芝居から流れる美しいピアノ練習曲。ピエロ(クラウン)たちが繰り広げるパントマイムやコンテンポラリー・ダンスに、世界最古の演劇「能」も驚きの面白さ。そして女の子憧れのバレエの世界は表も裏も存分に。子どもたちだけでなく、むしろ大人たちが夢中になってしまうハイ・クオリティな内容で、長野の夏を盛り上げます。

シルク・イナシュヴェ「ピスト&ラブ」 シルク・イナシュヴェ(パントマイム/ダンス)

8/4 ㊦ 19:00 8/5 ㊦ 11:00
アクトスペース(50分間)

全席自由

子ども(3歳~中学生) ¥500
大人 ¥1,500

※未就学児 無料

のっぽのトマとずんぐりしたアントワーンのクラウンふたり組の初来日公演です。なにもない舞台上で繰り広げられるジャグリングやアクロバティックな技と、思わず笑ってしまうユーモアあふれる動きは、子どもも大人も魅了します。ご家族みなさんでどうぞ。『ピスト&ラブ』は、彼らが初めてつくった作品です。



親子のためのクラシックコンサート「音楽の絵本」2days ズーラシアンブラス(金管五重奏) / 弦うさぎ(弦楽四重奏団)

8/7 ㊦ 11:00 8/8 ㊦ 11:00
メインホール
(約90分・休憩あり)

全席指定 ¥2,000(4歳以上)

※託児サービスあり

指揮者のオカビをはじめ、演奏するのはすべて絶滅危惧種の希少動物という金管五重奏団「ズーラシアンブラス」。うさぎ四姉妹の弦楽四重奏団「弦うさぎ」。この凄腕の動物たち、姿かたちはユーモラスでも演奏はとびきりの一級品。妥協はしません! 舞台転換を手伝う、はたらくりさんも必見! 本格的なクラシック音楽からアニメや童謡まで盛りだくさん。2公演とも異なるプログラムを演奏するので両方聴くのがオススメです。



ピアノと語りでつづる音楽紙芝居「月夜のナイチンゲール」 イラスト・語り: 音の台所(茂木淳子) ピアノ: 川津直子

8/7 ㊦ 14:00
リサイタルホール(60分間)

全席指定

子ども(3歳~中学生) ¥500
大人 ¥1,500

ブルクミュラーが難しく悩んでいる子、集まれ!いつも苦勞して練習している曲が、紙芝居のBGMや効果音になるとあら不思議!こんなに素敵なお曲だったのか、と驚いてしまうこと間違いなしです。ピアノ初級者であれば誰もが弾いたことのある「ブルクミュラー25の練習曲集」は、大人も聴いたらその魅力を再発見。またピアノを弾きたくてしまう不思議なコンサートです。



親子de能楽体験 能楽喜多流

8/8 ㊦ 14:00
アクトスペース(90分間)

全席自由

子ども(小中学生) ¥500
大人 ¥1,500

「お能、観てみようよ!」。650年もの間、一度も絶えることなく伝承されている演劇は、世界中でも日本の能や狂言が唯一であるといっても過言ではありません。難しいと思われがちな能ですが、喜多流・喜多能楽堂の協力を得て、体験を交えた親子能楽鑑賞会を開催します。夏休みの楽しい思い出として絵日記にも書けますよ!



子どものためのバレエ「ドン・キホーテの夢」 東京バレエ団

8/11 ㊦ 開演時刻未定
メインホール

詳細近日発表

東京・目黒を拠点に世界で活躍する東京バレエ団が中心となって、バレエの魅力を発信している「めぐるバレエ祭」のダイジェストが初めて長野にやってきます。東京バレエ団による子どものためのバレエ『ドン・キホーテの夢』公演のほか、ご家族そろって楽しめるワークショップやイベントが盛りだくさん。バレエ三昧な一日をお過ごしください!!



GO!GO!親子セット券

※おじいちゃんと孫でも可!!

大人&子ども各1枚のセットです。

■8/7セット(「音楽の絵本」+「月夜のナイチンゲール」) ¥5,500

■8/8セット(「音楽の絵本」+「親子de能楽体験」) ¥5,500 ※NCACチケットセンター(窓口・電話)のみ受付。

NCACチケットオンライン会員先行発売:4/21⑩10:00
一般発売:4/23⑩10:00

眼で、耳で、心で感じる。
オーケストラ音楽がとってもわかりやすい!

茂木大輔☆ クラシックまるわかりレクチャーコンサート Vol.1 吹奏楽編 シエナ・ウィンド・オーケストラ

9/4⑩15:00 メインホール
¥4,000 ②¥3,000 ③¥2,000

ガブリエリ:ピアノとフォルテのソナタ
モーツァルト:「グラン・パルティータ」より第1、3、6、7楽章
ヴォーン＝ウィリアムス:イギリス民謡組曲
R.シュトラウス:管楽器のためのセレナーデ 作品7
ホルスト:組曲「惑星」より 木星
グレン・ミラー・メドレー
ストレイホーン:A列車で行こう
プリマ:シング・シング・シング



N響首席オーボエ奏者であり、指揮、執筆、公演プロデュースなどマルチに活躍する音楽家、茂木大輔のレクチャーコンサート。第一弾は日本の吹奏楽界を牽引するシエナ・ウィンド・オーケストラと、吹奏楽ファンでも知っているようで知らない管楽合奏の歴史を紐解きます。最後には聴衆参加の恒例イベントが飛び出すかも!?

最強のドリームプラスが贈る最強のプラス・クリニック

侍BRASS アンサンブル・クリニック 講師:中川英二郎(侍BRASS団長)

9/24⑨開演時刻未定
メインホール
受講料未定



侍BRASSメンバー初のプラス・クリニックが長野に登場です! ハイセンスなアレンジで学生たちにも演奏できるよう工夫された作品を次々と発表している彼らが、長野の管楽器愛好者たちに直接指導を行うまととないチャンス!!

ジャズとクラシックのトッププレイヤーたちが
集結した最強のドリームプラス。長野ゆかりの新作初披露!

侍BRASS 2016 川中島

9/25⑩15:00
メインホール
¥4,000 ②¥3,000

高橋宏樹:文明開化の鐘
中川英二郎:侍<SAMURAI>
エリック・ミヤシロ編:
アフリカンシンフォニー
高橋宏樹:川中島(世界初演)
ほか



国内オケ首席奏者とスタジオ界のトッププレイヤーから成るユーフォニウム搭載の最強のドリームプラス。2016年は衝撃のデビューから10周年を迎えます。結成以来、ジャストロンボーン奏者・中川英二郎と、超人的ハイトーンで聴く者を驚愕させるエリック・ミヤシロを中心に、パワフルかつ洗練された演奏で聴衆を魅了します。徹底して和のテイストにこだわるのも彼らならではの。

NCACチケットオンライン会員先行発売:6/2⑩10:00
一般発売:6/4⑩10:00

クラシックが、翌月の公演が、100倍楽しく聴けるようになる!

NCAC音楽大学 「音楽の分かる大人になろう!」講座(全7回)

* NCACとは、Nagano City Arts Centerの略称です。

講師:柴田克彦(音楽ライター/音楽評論家)

9/22⑩・10/30⑩・11/27⑩・
12/23⑩・1/29⑩・2/26⑩・
3/26⑩ 各回共14:00
リサイクルホール
全席指定 1回券¥500 7回券¥3,200



「詳しくないからクラシックのコンサートには行けない」「知識を得てもっと深い鑑賞をしたい」……初心者も上級者も楽しめる「音楽鑑賞のヒント」がいっぱいの講座です。講師の柴田克彦は音楽ライターとして国内外のオーケストラやアーティストの公演を聴き比べてきた豊富な知識を活かし、翌月に行われる公演の演奏曲目について聴き方のコツや、知っておくとより楽しめる豆知識などを紹介します。

オーケストラでめぐる世界音楽の旅 Vol.1「ロシア」

梅田俊明(指揮)/横山幸雄(ピアノ)/東京交響楽団

10/1⑨開演時間未定
メインホール
¥6,000 ②¥5,000
③¥4,000 ④¥3,000



ショスタコーヴィチ:祝典序曲 イ長調 作品96
ラフマニノフ:ピアノ協奏曲第2番 ハ短調 作品18
チャイコフスキー:交響曲第6番 口短調 作品74「悲愴」

長野市芸術館がシリーズで行う「オーケストラでめぐる世界音楽の旅」、第一弾はこれぞロシア音楽!という作品ばかりを集めました。マエストロ梅田の洗練されたタクトと創立70周年を迎える東京交響楽団の名コンビ、さらに横山幸雄の力強く、かつドラマティックなピアノで、広大なロシアの響きをお楽しみいただきます。

TBS系「情熱大陸」にも出演した奇オヴァイオリニスト。初の長野市公演。

神尾真由子(ヴァイオリン)& ミロスラフ・クルティシェフ(ピアノ) デュオリサイタル

10/22⑨14:00 メインホール
¥5,000 ②¥4,000 ③¥3,000 ④¥2,000
ブラームス:ヴァイオリン・ソナタ第1番「雨の歌」/第3番
チャイコフスキー:レンスキーのアリア「青春は遠く過ぎ去り」
プロコフィエフ:行進曲 作品33bis-3
ショスタコーヴィチ:ロマンス 作品97a-8
ハチャトゥリアン:剣の舞
ラフマニノフ:ヴォカリーズ 作品34-14
パツィーニ:妖精の踊り 作品25 ほか



11歳で巨匠・小澤征爾を驚愕させ、2007年チャイコフスキー国際コンクールでの優勝以来、輝かしいキャリアを着々と築いているヴァイオリニスト、神尾真由子。強烈ともいえる個性的解釈、時に「牙をむくような」と評される感情表現。弾く度に聴衆を圧倒するその演奏は「奇オ」そのものです。そんな彼女が長野市民向けに組んだプログラムは本格ファンをもうならせるブラームスのソナタと、初心者にも親しめる小曲集の組合せ。さあどんな表情を見せてくれるのか。満を持しての、長野市初公演です。

メインホールについて、 語ります



1階のロビー

長野市美術館の各ホールについてお話しするコーナー、今回はメインホールをご紹介します。

市庁舎の東側に位置し、皆さんが目にする舞台・客席・ロビーは建物の1階2階にあります。その他、地下1階には楽屋、4階には照明投光室、そのまた上の6階には舞台機構の機械室と、メインホールは7階分のスペースから成っています。

ホールの内装デザインテーマ「山並み」には間接照明が設置されていて、会場内の演出の一つとして使うことも出来ます。音響反射板は可動式ですが、設置すると客席側面と一体化する構造になっていますので、客席から舞台が近く感じ、臨場感ある舞台が楽しめるのではないのでしょうか。また、ロビーには、ビュッフェコーナーもあります。公演前や休憩中等に飲み物片手にくつろいでいただき、公演だけでなく「美術館」そのものを楽しんでください。

裏側もちよこっとご紹介

舞台は、間口18m × 奥行18m × 高さ12.4mの広さがあり、音楽や演劇など様々な

舞台芸術に対応できます。

緞帳や幕をはじめ、音楽公演などで使用する音響反射板も舞台の頭上に収納しており、全て電動で昇降します。設置作業は舞台袖にあるタッチパネルの操作盤を使います。



機会があれば操作してみてください…とりたいところですが、操作はすべて会館技術スタッフが行います。どこかで見かけても決して触らないでください。

そして、舞台を照らす照明。灯具は細かいものも含めて300以上あります。設置場所や用途に合わせて演出できるよう、色々な種類をそろえています。



家庭用では60ワットや100ワットの電球を使うことが多いと思いますが(今はLED?)舞



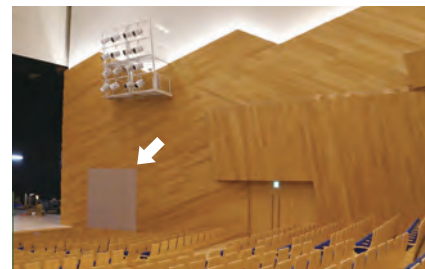
2階席から舞台を臨む

台照明では2キロワットのものもあります。そんな灯体を何台も使うので、光が当たる場所は熱も持ちます。文字通り、熱い舞台をお届けします!

オーケストラ等の生演奏はもちろん、マイク等を使う音楽公演にも対応できるよう、壁の中



に50台ものスピーカーが設置されています。すべての客席に音が行き渡るよう、スピーカーの向きもそれぞれ調整されています。客席のどこに座っても、どこかのスピーカーがあなたを狙っています。逃げられませんよ!



壁面に設置されているスピーカー

文: 大山鋭裕 (NCAC施設担当)

長野市芸術館広報誌の装丁画は注目の作家、越ちひろに

今、長野で最も輝いている若手画家の1人、越ちひろ。

あふれるパッションや感情を表現する彼女の作品には、一瞬にして観る人の心をつかみ、魅了する力があふれています。さらびやかで優美な作風で、長野市芸術館を市民の方々に紹介していく広報誌「NCAC Magazine」の表紙を飾っていただきたいと考え、装丁画を依頼しました。

絵を描き起こすため、開館前の長野市芸術館を視察した彼女に感想を聞いてみました。「山をイメージした形がいろいろなところにあって、長野らしいデザインが面白いですね。ホールという建物の中に生まれる芸術を生むのは人間。人間が創り上げる芸術の温かさを、ホールそのものの色ではなく、私自身の色で描いていきたいです」

これから毎回、長野市芸術館のどこかを彼女の視点で描いていきます。公演情報と併せて装丁画にもどうぞ注目ください。



クラシック音楽キャラバン登録アーティスト・ラインナップ

3月8日(火)、オーディションを経てクラシック音楽キャラバンとして活動する登録アーティストが決まりました。60組以上もの応募者の中から激戦を経て選ばれた4組のアーティストたち。いずれも「長野市の方々にもっとクラシックの素晴らしさを伝えたい」という熱意にあふれ、オーディションでは東京の音楽事務所や大手レコード会社のスタッフをうならせた若手実力者たちです。春から夏にかけてアウトリーチ・プログラムの研修を受け、7月のアートメントNAGANOの一環として松代・寺町商家で行われる「クラシック音楽キャラバンCafé」でお披露目を行います(P11をご参照ください)。9月からは順次、みなさまの街へクラシックをお届けします。現在、派遣先を募集中!!



飯島諒(フルート)



すみまるデュオ/炭崎友絵(オーボエ) 丸山佳織(ファゴット)



デュオ・ドゥ・フルール/中村ゆかり(ヴァイオリン) 中村里奈(ヴァイオリン) 中島清香(メゾソプラノ)



メインホール ビュッフェコーナーのご紹介

長野市芸術館メインホールのホワイエには、ビュッフェコーナーがあります。クラシック公演は、休憩時間にお酒を飲みながらコンサートについて語り合うのも楽しみのひとつ。「今日の演奏家、絶好調だね」「評判通りの素晴らしい演奏だ」「自分の好みとは違ったかな」「来月のこの公演、絶対聴いた方がいいよ」…など、お友達と語り合い、また、熱く語っている方の話に耳を傾けたり。様々な会話が飛び交う休憩時間のビュッフェコーナーは、情報の宝庫でもあります。「束の間の休憩を充実した時間として過ごしていただきたい」とは、こちらでサービススタッフを務める浦河氏。ワイン各種、コーヒーなどのほか「コンサートをイメージしたカクテルを作ります。公演に足を運ぶ楽しみの一つとしていただければ」とも。



久石芸術監督の記事、まだまだあります

3月16日(水)、久石譲芸術監督のインタビューが行われました。作曲活動の真っ最中、しかも翌週には中国公演が控えているという多忙な時期に、合間を縫っての取材。とは言え、長野市芸術館について、長野市への思い、オープニング・シリーズのコンセプト、アートメントについて、そして自身の音楽…などを何時間にもわたって存分に語り、楽しそうに音楽談義に花を咲かせる場面もありました。

今回取材を受けた各誌はこちらです。久石芸術監督の音楽観についてもっと知りたい方は、ぜひお読みください。



「ぶらあば」5月号「Pic Up」欄(4/18発行) ※長野市芸術館にも設置しています。
「音楽の友」5月号「People」欄(4/18発売)
「週刊文春」4/28号「クローズアップ」欄(4/21発売)

「Nチケ会員」募集中！

「Nチケ会員」は「NCAC(Nagano City Arts Center)チケットオンライン会員」の略称です

- ▶ 会員のみご利用いただけるチケット先行発売あり。
お気に入りの席はお早目に！
- ▶ 月1回、メールマガジンで最新情報をお届けします(ご希望の方のみ)。
- ▶ 入会費・会費 無料です。

平成28年5月8日にいよいよ開館する「長野市芸術館」。会館主催公演をはじめ、芸術館の公演や催しのチケットをオンラインで購入できる会員制度です。ぜひ、ご登録をお願いいたします。

お申込み・詳細は、公式ウェブサイト内の「NCACチケットオンライン」にて！

長野市芸術館

検索

チケットご購入の方法は3つ 便利です！

1  インターネット

2  電話

3  チケットセンター窓口



NCAC チケットオンライン

<http://www.nagano-arts.or.jp>

AM3:00~4:00 はメンテナンスのため休止

Nチケ会員限定

お支払い方法	チケットお引取り方法 / 手数料・送料	備考
① チケットセンター窓口 [現金 / クレジットカード]	チケットセンター窓口 / 手数料：無料	窓口でのお支払い期限は7日以内です。
② 銀行振込	チケットセンター窓口 / 手数料：無料 郵送 (簡易書留) / 送料：402 円	お支払い・お振り込み期限は7日以内です。 振込み手数料はお客様負担となります。
③ オンライン決済 [クレジットカード]	チケットセンター窓口 / 手数料：無料 [注2] 郵送 (簡易書留) / 送料：402 円 コンビニ発券 / 手数料：173 円	
④ コンビニ [セブンイレブン / サークルKサンクス]	コンビニ発券 / 手数料：270 円	コンビニでのお支払い期限は7日以内です。



NCAC チケットセンター

TEL / 026-219-3191

場所 / 長野市芸術館 1F (長野市大字鶴賀緑町1613)

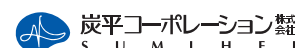
営業時間 10:00~19:00 / 火曜定休

お支払い方法	チケットお引取り方法 / 手数料・送料	備考
① チケットセンター窓口 [現金 / クレジットカード]	チケットセンター窓口 / 手数料：無料	窓口でのお支払い期限は7日以内です。
② 銀行振込	チケットセンター窓口 / 手数料：無料 郵送 (簡易書留) / 送料：402 円	お支払い・お振り込み期限は7日以内です。 振込み手数料はお客様負担となります。
③ コンビニ [サークルKサンクスのみ]	コンビニ発券 / 手数料：270 円	コンビニでのお支払い期限は7日以内です。

<チケットご購入に際して>

- 不可抗力による公演中止の場合を除き、チケットの払い戻し・交換はいたしません。
- 支払期限内にお支払いがない場合、ご予約がキャンセルとなりますのでご注意ください。
- 車椅子席をご希望の方はNCACチケットセンターへお電話でお問合せください。
- 正規プレイガイド以外でチケットを入手された場合、無効となり入場できないことがあります。

ゴールドパートナー



シルバーパートナー

クリーニングザれもん

スタインウェイセンター高崎

ホテル国際21

ブロンズパートナー

(株) アサヒエージェンシー
アベレコード
オフィス蔭
ししとう

(株) 蔦友
(株) 長野三光
(株) ながの東急百貨店
ペイクックコーポレーション (株)
マルコメ (株)

(株) アスク
(一社) 長野県経営者協会長野支部
(株) 共立プランニング
鮎レストラン大政
東信運送 (株)
長野商工会議所
(株) 長野舞台
(株) ホテルメトロポリタン長野
(株) 守谷商会

(株) アド・ユニティー
うなぎの浜名屋
共和観光 (株) チサングランド長野
清泉女学院グループ大学・短大・高校・中学
(株) ながのアド・ビューロ
長野税理士法人
(株) ビー・クス
(株) マルイチ産商

サプライヤーパートナー

(株) AOKIホールディングス

(株) ヒシヤ

※各パートナー毎・五十音順

NCAC
Magazine
Opus1 / April 2016

発行 | 一般財団法人長野市文化芸術振興財団
Nagano City Arts Foundation
〒380-8512 長野県長野市大字鶴賀緑町 1613 番地
TEL | 026-219-3100 Fax: 026-219-3110
E-mail | info@nagano-arts.or.jp
URL | http://www.nagano-arts.or.jp/

発行日 | 平成28年4月1日
企画・編集 | NCAC 広報室
デザイン | 株式会社ビー・クス
装丁画 | 越ちひろ
印刷 | 中外印刷株式会社

© 無断転載禁止

公演内容は2016年3月現在のものです。最新情報については長野市芸術館公式ウェブサイト等をご覧ください。



長野市芸術館
NAGANO CITY ARTS CENTER